

後三年合戦沼柵公開講座日程

9:00～10:00

開場・受付

10:00～10:10

開会行事

10:10～10:40

報告1:「払田柵跡関連遺跡の調査―造山地区を中心に―」
五十嵐一治氏(秋田県埋蔵文化財センター)

10:40～11:00

報告2:「陸奥の須恵器からみた造山遺跡群の出土遺物―城柵造営期の須恵器の生産と特徴―」
櫻井友梓氏(岩手県教育委員会)

11:00～11:10

—休憩—

11:10～11:40

報告3:「在地豪族の台頭と沼柵」
島田祐悦(横手市教育委員会)

11:40～13:00

—休憩(昼食)—

13:00～14:00

基調講演1:「奈良時代後半の城柵―陸奥国の城柵から第1次雄勝城を考える―」
村田晃一氏(宮城県教育委員会)

14:00～15:00

基調講演2:「古代横手盆地をめぐる交通路と政治・社会」
永田英明氏(東北大学)

15:00～15:20

—休憩—

15:20～16:30

座談会:「雄勝城と沼柵～文献・考古資料から実像に迫る～」
司会/高橋学氏(秋田県埋蔵文化財センター)
パネリスト・上記講師陣

16:30～

閉会

雄勝城と沼柵

～文献・考古資料から実像に迫る～

横手市西部は、旧雄勝郡と旧平鹿郡であった。『続日本紀』によると天平五年(733)、雄勝村に郡を建て、天平宝字三年(759)年に雄勝郡と平鹿郡が置かれ、古代城柵である雄勝城が築城されたことが知られる。近年の秋田県教育委員会及び横手市教育委員会の発掘調査から、同時代の資料がこの地域から集中して見つかっており、古代律令国家が作った役所である雄勝城及び雄勝・平鹿郡府の存在も考えられる。また同時に沼柵や金沢柵の推定地周辺においても古代の遺跡が集中していることから、その地域拠点にいた豪族が力を付け古代律令国家の地盤を引き継ぎ、後三年合戦関連遺跡の柵へと向かうのではないかと考えられる。

今回の公開講座は、古代律令国家が横手盆地に作ったとみられる交通路の問題や多賀城・秋田城・払田柵などの古代城柵から見た未発見の雄勝城の立地条件、また出土遺物から時代の整合性を検討することにより、横手市西部の歴史的意義を明らかにすることを目的としている。



主催:横手市教育委員会

協力:雄物川地域づくり協議会・雄物川町文化財保護協会

問合せ先:横手市教育委員会 教育総務部文化財保護課 ☎0182-32-2403